

テーマ1：個別事業の見直しの視点について

1 ねらい

- ・平成30年度に実施した事務事業見直しに係る職員提案で得られた「提案の着想・着眼点」のうち、対象者が少ない事業の見直しに着目し、その具体的な事業の一例として抽出した「帰国児童生徒教育の推進事業」をとおして、見直しの視点の整理を行う。
- ・「帰国児童生徒教育の推進事業」は、対象とする市民の数が少ない事業のうち、対象が減少傾向にある、事業開始から一定の年数が経過している、他で同様の事業を実施しているなど、様々な課題を含んでおり、今回議論を行うための具体的事例として抽出した。
- ・「帰国児童生徒教育の推進事業」を一例とした事業の見直しについての議論を踏まえながら、事務事業見直しの視点の整理を行い、平成30年度に整理した見直しの考え方の補完を行う。

2 「帰国児童生徒教育の推進事業」を具体的事例として

①「帰国児童生徒教育の推進事業」の概要について

表2-1. 「帰国児童生徒教育の推進事業」の概要（平成29年度決算事務事業評価票を加工）

事業名		帰国児童生徒教育の推進事業								
担当課		指導課								
事業概要 (平成29年度決算)	事業開始年度	昭和60年度		実施の形態	直営					
	実施の根拠	その他		主体の多様性	民間でも実施					
	目的	生活指導や学力補充等の学習指導及び日本語指導を行い、生活環境や学校生活の適応を図る。								
	対象	帰国及び外国籍の児童・生徒			対象者	14人				
	平成29年度の事業内容	小平市第五小学校内に帰国児童生徒教室を設置し、年間25日程度土曜日に教室を開催し、帰国及び外国籍の児童・生徒(14人)に対し、日本での生活習慣や学習の適応指導を行った。また、日本語の使用に著しい困難を有する帰国及び外国籍の児童・生徒(延べ16人)に対して、在籍校に日本語指導講師を派遣し、初期の日本語指導を行った。								
	財務内容	年度	H27 決算		H28 決算	H29 決算		H30 予算 ※事業費のみ	R01 予算 ※事業費のみ	
		総コスト(千円)	5,365		4,728	3,841		—	—	
		経費	事業費	4,784		4,138	3,242		4,425	4,416
			人件費	581		591	599		—	—
		財源	国都支出金	0		0	0		0	0
その他			0		0	0		0	0	
一般財源	5,365		4,728	3,841		4,425	4,416			
職員・再任用(人)	0.08	0.00	0.08	0.00	0.08	0.00	—	—		

活動指標	年度		H27	H28	H29	H30	R01
	帰国児童生徒教室開催回数(回)	目標値	25	25	25	—	—
		実績値	28	27	27	—	—

備考

■帰国児童生徒教室の内容

- ・設置校：小平第五小学校
- ・日時：土曜日（例年25回程度） 午前9時30分～午後12時
- ・内容：学習は前半と後半に分けて行う。
 - 【前半】9時30分～10時40分
 - ・日本の風俗習慣、理科、社会、体育など教科全般にわたっての学習
 - ・その他、七夕祭り、節分、ひな祭りなどの行事、柏餅づくり、干し柿づくり、陶芸、絵手紙、外国のおやつづくりなど
 - 【後半】11時～12時
 - ・国語、算数を中心とした基礎学力を養う学習（児童生徒の学習状況に応じた個別指導）
 - ・外国人講師による「英会話」の指導を年10回実施
- ・運営方法：教室運営の中心となる専任講師を2人配置し、教室開催の準備、年間計画の策定、講師の手配、保護者への便り作成等の教室運営を行っている。
専任講師は、各小中学校長からの推薦による現役教員のほか、退職教員を各回の実施教科に合わせた講師として依頼している。
- ・その他：日本語の使用に著しい困難がある児童生徒に対しては、日本語講師を在籍校に派遣し個別指導を行っている。

■帰国児童生徒教室登録者数（本事業対象者）

①登録児童生徒数（対象者数）及び教室1回当たりの出席者数の推移

	H26	H27	H28	H29	H30
登録者数	15人	20人	18人	14人	12人
出席者数/回	7.5人/回	5.4人/回	6.5人/回	3.5人/回	3.5人/回

②登録児童生徒の内訳（平成30年度）

- 小学生5人（うち帰国児童3人、外国籍児童2人）
- 中学生7人（うち帰国児童5人、外国籍生徒2人）

■日本語個別指導人数（延べ）

	H26	H27	H28	H29	H30
日本語個別指導人数（延べ）	21人	21人	18人	16人	22人

■その他

- ・平成 23 年度までは、都の非常勤教員が運営を担当していたが、同年の事業仕分けにおいて要改善の指摘を受け、以降、運営方法や開催回数の見直しを行い、現在に至っている。
- ・「小平市国際交流協会」（市民が中心となった地域における国際交流の推進と外国との交流の促進の活動拠点）では、①国際理解と国際親善の普及、②地域における友好交流、③地域や日本文化、外国都市や外国文化の紹介、④国際交流情報の収集と地域への提供、⑤その他協会の目的達成のために必要な事業、の 5 つの目的で活動をしている。事業の一つとして、子どもたちを対象にした日本語の勉強や学校の補習をする「子ども日本語教室」を開催している。（時間：毎週水曜日 午後 4 時 10 分～5 時 40 分、場所：学園西町地域センター3 階、参加費：1 学期 1,000 円）

②事業の課題等

- ・帰国児童生徒教室の対象数が平成 30 年度末で 12 人と少なく、また年々微減傾向にある。
- ・一方で、日本語の使用に著しい困難がある児童生徒に対する、在籍校への日本語講師派遣による個別指導については、外国籍児童生徒の需要が高く、派遣回数が増加する傾向にある。
- ・土曜日の午前中に開催しており、部活動や土曜授業等との重複により、参加率が低い。
- ・本事業の目的は帰国児童・生徒の学習指導が主な目的であるが、近年、外国籍の児童・生徒が対象のメインとなっており、事業目的と事業内容の整理が必要。
- ・小平市国際交流協会で、子どもたちを対象にした日本語の勉強や学校の補習をする「子ども日本語教室」を開催している。